



特集

新副会頭に聞く

～地域経済の好循環に向けて～

2022年11月1日、当所役員・議員の改選に伴い、七十七銀行の氏家照彦取締役会長、東北発電工業の山本俊二取締役社長、菅原学園の菅原一博理事長の3人が、新たに副会頭に就任しました。

今月号では、3人の新副会頭から、就任に際しての抱負や社業の近況のほか、趣味や休日の過ごし方などのパーソナルな部分をお伺いすることで、一人一人の人柄をご紹介します。



仙台商工会議所 副会頭

氏家 照彦 氏

うじいえ てるひこ
(株)七十七銀行 取締役会長

プロフィール

1946年8月29日生まれ。仙台市出身。
1969年、慶應義塾大学経済学部を卒業後、株日本興業銀行(現・みずほ銀行)に入行。1993年、株七十七銀行参与に就任。取締役営業開発部長、常務取締役本店営業部長、専務取締役、取締役頭取などを経て、2018年6月より現職。仙台商工会議所では、2010年11月から3号議員・常議員、理財部会長、運営委員長を務め、2022年11月1日より副会頭に就任。

潜在力豊かな都市「仙台」の魅力増進に努めています。

― 休日は、車でお出かけになることが多いですね。

一日中家にいるのはあまり好まないの
で、車で妻と気分転換に出かけることが
多いです。私はそばが好きなので、県内は
もちろん、山形まで足を延ばすこともあ
ります。店構えと言いますか、のれんの出
し方なども含めて、風情のある店が好き
ですね。また、食べ終わった程よいタイミ
ングでそば湯が出てくる、その際に「熱い
ので気をつけてくださいね」といった一言
があると、心が通い合うような感じがし
て、ホスピタリティーのしつかりとした良
い店だなと思います。

― 相撲がお好きだと伺いましたが、どんな点に魅力を感じますか。

私が相撲をやるわけではありませんよ
(笑)。子どものころは友人たちと相撲を
とって遊びましたし、国技館に足を運ん
だこともありましたが、最近は専らテレ
ビ観戦です。応援するのは、その時の成績
優秀な力士と決めています。その方が、
気が楽ですからね(笑)。競技場が勝負俵
で丸い形に造られているためでしょうか、

最後まで踏ん張ろうとして、土俵際で大
技が生まれるのではないかと思います。

また、力士に関することだけではなく、
土俵はどのようにして造られるのかとい
うことや、土俵の上にあるつり屋根には
昔、屋根の下に4本の柱が存在していて、
それらに巻かれた布の色が、屋根に下がっ
ている房の色として残っているというこ
となど、さまざまな伝統や歴史も興味深い
ところですね。他にも、判定を行う行司の
所作や装束などにも特徴があつて、階級
によって異なるのですが、最高位の立行司
は腰に短刀を帯びて土俵に上がります。
これには「差し違いをした場合に切腹す
る覚悟を示したものだ」という説があるそ
うです。休日であれば、ビールを片手に、
疑問に思ったことをスマートフォンで調べ
ながら楽しんでいきます。

― これまで読まれた本の中から、お薦めの本があればご紹介いただけますか。

歴史学者であり、東北
大学名誉教授の平川新先
生が書かれた「戦国日本
と大航海時代 秀吉・家
康・政宗の外交戦略」は、
大変面白かったですね。当
時の日本を巡る国際情勢
はどうであったのか、東ア
ジアでの覇権を求め押し
寄せる西欧列強にどう相



奥さまとみやぎ蔵王の樹氷めぐりに行った際の1枚。「温泉に1泊した翌日、雪上車に乗って小一時間程度、樹氷を間近に見られて楽しかったですね」と話す。

― 最後に、お仕事の近況と、副会頭ご就任に際しての抱負をお聞かせください。

弊行は、地域に貢献する金融機関を目指して
います。役職員が、さまざまな面
で知恵を絞って地域の発展に役立とうと努
力している姿を見ているとうれしく、大
いに後押しをしたいと思います。

また、このたび仙台商工会議所の副会
頭を仰せつかりました。仙台は大変魅力
的で、ポテンシャルも高い地域です。これか
らも会員の皆さんと一緒に、潜在力豊
かな都市としての魅力増進に努めていきま
す。その上で、「東北のために貢献する都
市」さらには「国際都市仙台」をこのよう
に実現するかを考えていきたいと思いま
すので、どうぞよろしく願っています。



仙台商工会議所 副会頭

山本 俊二 氏

やまもと しゅんじ

(東北発電工業(株) 取締役社長)

プロフィール

1956年12月19日生まれ。東京都出身。1979年、慶應義塾大学法学部を卒業後、東北電力(株)入社。2011年、執行役員山形支店長に就任し、取締役常務執行役員、取締役副社長執行役員などを歴任。2022年4月、東北発電工業(株)取締役社長に就任。仙台商工会議所では、2020年4月より財政委員長を務め、2022年11月1日に副会頭に就任。

仙台の発展にどう貢献できるか、皆さんとともに考えていきます。

―音楽鑑賞がご趣味と伺いましたが。

仙台フィルハーモニー管弦楽団の定期会員になっているので、よく夫婦で演奏会に足を運んで楽しんでいきます。仙台出身の音楽家や、仙台国際音楽コンクールの入賞者など、当地に縁のある方がゲストで来られる演奏会は、特に感慨深いものがあります。また、クラシックに限らず、ポップやロックも好きで、幅広く聞いています。仙台は、身近に質の高い音楽を楽しめることができる都市なので、うれしいですね。

―休日にはどのようにお過ごしですか。

妻と一緒に買い物に出かけたり、少し足を延ばして日帰り温泉に立ち寄りたりして過ごしています。2人とも食べることもお酒を飲むことも好きですし、妻は料

理が得意なので、食材やおいしいお酒を求めて、山形まで行くこともあります。

―座右の銘を教えてください。

「未来起点・未来進行形」という言葉を、常に頭に置いて仕事に取り組んでいます。日本経済に大きく貢献した経営者として尊敬する稲盛和夫氏も同様のことをおっしゃっていて、足元には解決しなければならぬ課題がありますが、それでも常に前向きに、将来を見て考えることを大切にしたいと考えています。

―好きな本や作家、映画などをご紹介ください。

城山三郎の「官僚たちの夏」や福岡伸一の「生物と無生物のあいだ」、内館牧子の「終わった人」などが面白かったですね。



仙台商工会議所 副会頭

菅原 一博 氏

すがわら かずひろ

(学校法人菅原学園 理事長)

プロフィール

1946年1月24日生まれ。仙台市出身。1968年、慶應義塾大学商学部を卒業後、早稲田大学大学院商学研究科に進学。1996年、父親が創立した学校法人菅原学園理事長に就任。現在、5つの専門学校のほか、幼稚園や保育園、山口県萩市の至誠館大学を運営している。仙台商工会議所では、1994年に1号議員就任後、税務対策委員長、常議員、2号議員、文化観光部会長を務め、2022年11月より副会頭に就任。

東北をけん引する「選ばれる都市」を目指して尽力していきます。

―茶道とゴルフがご趣味と伺いました。

茶道は40年ほど前に始めたのですが、現在は、新型コロナウィルスの影響で、お茶会を開くのが難しい状況です。ただ、海外からお客さまが来られた際には、応接室に茶道具を用意しておき、お茶をたてて召し上がっていただくようにしています。とても喜んでいただけるのがうれしいですね。茶道の良さは、日本の文化が全て詰め込まれている点にあります。例えば、日本料理店などに飾られている掛け軸やお花、料理を盛り付ける器などに造詣が深く、今まで気に留めなかった相手の思いや心配りを感じるができます。これは茶道を学んでいたからこそできた経験ですので、続けていて良かったと思います。

また、ゴルフもプレーする機会が減ってしまいましたので、落ち着いたら回数を増やしていきたいと考えています。私はゴルフを「お散歩」と思い、妻や友人たちとのんびり楽しみたいですね。

―座右の銘をご紹介しますか。

「運・鈍・根」です。この言葉は父の座右の銘でもあって、「成功するためには、運の良さを味方に付けて、根気よく取り組み、時には、ばかになることも必要」という意味です。年齢を重ねることに、この言葉が身に染みるようになりましたね。

―休日は愛犬との散歩から始まるかと。

3歳のトイプードルのシャンティと一緒に30分ほどの散歩に出るのですが、寒いときには「ブイッ」とそっぽを向くし、

特に、終わった人は、定年後の男性を主人公にしているため身につまされました(笑)。

映画では、「スター・ウォーズ」シリーズ」と「ザ・ファースト・スラムダンク」でしょうか。スター・ウォーズは、内容の面白さと映像の素晴らしさのほか、「最初に映画を見たときは独身だった」「この回からは家族で見に行ったな」というように、そのときの自分自身の状況を思い出せるのも好きな理由の一つです。スラムダンクは、原作の漫画をきっかけに息子がミニバスケットボールを始めたこともあり、家族の思い出と重なる作品でもあります。その息子に勧められて、映画を見たのですが、仲間を信じ、自分を信じるために積み重ねる努力の大切さを、改めて思い起こさせてくれました。

―今後、どんなことに挑戦してみたいとお考えですか。

スペインに旅行をしたいと考えています。これまで、アメリカやイギリスなどには滞在したことがあったのですが、スペインは行ったことがなく、妻と「いつか一緒に行こう」と約束しているんです。

―最後に、お仕事の近況と、副会頭ご就任に際しての抱負をお聞かせください。

弊社は主に、東北・新潟の発電設備のメンテナンス業務などを行っています。昨

風が強いといつては歩かなくなるんです。仕方がないので、私が抱っこして歩くのですが、どちらの散歩なのかわからなくなることがしばしばあります(笑)。

また、妻とシャンティとで食事に行くのも楽しみの一つで、ペット同伴で入れるレストランによく行くのですが、仙台にはまだそういったお店が少なく残念です。一方で、東京にはペット同伴で入れるお店がたくさんありますので、シャンティをキャリアケースに入れて新幹線で一緒に行くこともあります。

―今後、どんなことに挑戦してみたいとお考えですか。

古典を読むことです。実は今、「四書五経(儒教の経書の中で特に重要とされる四書と五経の総称)」の一つである「大学」という本を読んでいるのですが、その中に書かれていることに共感しまして、他の書物も読んでみたいと思うようになりました。

大学には、「大学の道は明德を明らかにするに在り」とあるのですが、この「徳」とは「自己の最善を他者に尽くすこと」と書いてあります。これは、私の尊敬する人物で、経営の神様と言われる松下幸之助や、長きにわたる太平の世を築いた徳川家康も同様のことを語っています。自分の運を強くするには徳を積むことが大切で、それは利他の精神を軸に生

年から電力需給が逼迫している状況の中、電力の安定供給を側面から支えることと、社会の課題解決に直接貢献できる

仕事をしているということについて、社員が誇りをもてるようにしていきたいと考えています。また、さらなる成長を目指して経営基盤の強化とともに、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進にも注力しているところです。

仙台は、自然環境や文化、教育などの面で水準が高く、今後は次世代放射光施設「ナノテラス」の活用により、新産業の創出や、それに伴う産業集積も期待できることから、国内でも発展のポテンシャルが高い都市だと思います。こうしたアドバンテージを最大限に生かしながら、仙台商工会議所の副会頭として、コロナ禍からの地域経済の再生や、カーボンニュートラルをはじめとした新たな課題への対応に積極的に取り組むとともに、これからのまちの発展にいかにお力添えができるかを、会員の皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



東北発電工業の酒田支社で、発電設備を巡視した際の様子。巡視では、工事の進捗状況や安全品質対策の状況などを確認している。

きることと理解して、自分自身、精進しようと思えます。

―最後に、副会頭就任に際しての抱負をお聞かせください。

副会頭として、「自己変革を合言葉に課題解決に取り組む」という藤崎会頭の方針の下、仙台が東北をけん引し、国内外から選ばれる都市になるよう、尽力していきたいと考えています。そのためには、仙台が今よりもっと楽しいまちになることで、若者たちの「ここで学びたい、働きたい、住みたい」という気持ちを呼び起こすことも重要です。現在、弊学園で準備を進めている専門学校の本町の新校舎の建設は、その気持ちを呼び起こすためのきっかけになり得ると思いますし、まちに新たなにぎわいをつくることもできるでしょう。会員の皆さんやまちづくりの現場を知る多くの方々の知恵をお借りしながら、仙台を心躍るまちにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



以前、愛犬のシャンティとともにペット情報誌の取材を受けた際、記念に撮影した1枚。